

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長氏名	廣澤 伸高	生徒指導主事氏名	坂田 雅則
取組事例名 『善く生きる認定』					
取組のねらい『キーワード 規範意識・自己肯定感・努力』					
<p>○規範意識を身に付けるとともに、人のために行動することで自己肯定感や自尊感情を高める。</p> <p>○目標や夢に向かって努力しようとする心情を養う。</p>					
取組の具体的内容『キーワード 善く生きる』					
<p>○毎月、学級から 2 名程度「善く生きる認定者」を決定する。</p> <p>○認定の観点は「ルールやきまりを率先して守っている」「人のために行動している」「目標や夢に向かって努力している」の 3 つ。</p> <p>○認定者の決定は学級児童の話し合いで行う。</p> <p>○全校朝会で表彰を行う。</p> <p>○児童玄関前の掲示板に、写真と認定期理由を掲示する。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード 選出人数』					
<p>○毎月、各学級から 2 名程度選出しているので、認定されない児童も多くいる。</p> <p>○児童玄関前に認定期理由を掲示することで、他学年の児童も、どのような行動が「善く生きる」ことなのか考えることができる。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード 規範意識・自己肯定感』					
<p>○各学級、学級活動の時間に、「善く生きている」と思う友達について話し合いを行っている。友達の頑張っていることを発表し合うことで、どのような行動が「善く生きる」ことなのか考えることができる。また、友達から認められることの喜びや、人の役に立っているという実感をもつことができる。</p> <p>○庄原小学校の 5 つの校風や月の児童会目標を意識して行動する児童が増えてきた。</p> <p>○学期に 1 度行っている生活アンケートの結果、「自分にはよいところがある」と回答した児童が、昨年度の 2 月が 76%、今年度の 7 月が 83%、11 月が 86%と向上している。</p>					
今後の展開『キーワード ピアサポート』					
<p>○今後も継続して「善く生きる認定」を実施していく。</p> <p>○児童会執行部が、縦割り班による「ドッジボール大会」を計画している。高学年が下級生の世話をすることで自分に自信がついたり、低学年は高学年にあこがれや感謝の気持ちをもったりすることを期待している。</p> <p>○さまざまな場面で、高学年が下の学年へ良い形で関わりがもてるように、ピア・サポートの考え方を積極的に取り入れていく。そのような行動も「善く生きる」生き方につながってくると考える。</p>					
他校へのアドバイス『キーワード 評価』					
<p>○認定の観点を「ルールやきまりを率先して守っている」「人のために行動している」「目標や夢に向かって努力している」としたことで、「やるべきことはやる、守るべきことは守る」児童が増えた。頑張りを認め、評価することが次の意欲へとつながっている。評価することの大切さを実感している。</p>					